



プロ直伝! 採録

今こそ知りたい オーラルケア

日時 2021年6月6日(東京)、7月4日(大阪)

会場 丸ビルホール(東京)、ナレッジシアター(大阪)

アース製薬株式会社(本社:東京都千代田区、川端克宜 CEO)は万全の新型コロナウイルス感染症対策を施し、東京と大阪の2会場で、オーラルケアをテーマにセミナーを開催した。セミナーでは5人のプロが口の健康や感染症をテーマに、健康増進に役立てられる講演を行った。

動画 セミナー動画公開中▶



講演①「歯を失う最大原因、歯周病を知ろう！」

歯 周病とは、行きつく先は歯がなくなる病気です。現在、歯周病と全身の健康に関する研究が進んでいます。機能する歯の本数が多いほど寿命が長い、噛み合わせが悪いと下肢運動機能に影響する、そういう報告が多数あります。アメリカの退役軍人病院で冠状動脈性心疾患で死亡した166人を調べたところ、歯周病患者の死亡率が高いという報告もありました。この報告での進行した歯周病は、喫煙以上の害をなしていました。

心臓病の他にも糖尿病、早産、アルツハイマー型認知症などの全身疾患と歯周病との関わりが解明されてきました。口腔内の病気が全身に悪影響を及ぼすメカニズムは、歯周ポケット内の炎症による毒素や炎症性物質が血管から全身を巡り、全身に悪影響を及ぼすと考えられます。これを止

めるには、歯周病を治すしかないわけです。

そして歯周病の予防と対策は、ブラークコントロールに尽きます。私たちは当然、必要な歯周治療をしますが、それ以上に患者さんご自身が正しいオーラルケアを行うことが大事です。そこで注目したいのが、洗口液による補助的なケミカルブラークコントロールです。日本での洗口液普及率は先進国のなかでも低いレベルにあります。歯科医院専売のモンダミンハビットプロには殺菌や抗炎症、止血作用に効果的な薬剤などが含まれます。メカニカルブラークコントロールでは足りない部分の殺菌に、役立つと考えます。

症例ですが、慢性剥離性歯肉炎の64歳女性のうがい薬をモンダミンハビットプロに変えてから、歯ブラシを指導しました。すると1カ月で出血は止まり、3カ月でかなり

歯肉が健康な状態になりました。洗口液でここまで改善したのだから、効果はあります。高齢の歯周病患者は増え続け、歯科医にかからない方も多い。だからこそ、ケミカルブラークコントロールの重要性を認識すべきでしょう。



歯周病のプロ!

しん きてつ **申 基 詰** 先生 明海大学歯学部長/付属病院長

1983年城西歯科大学(現・明海大学歯学部)卒業。同大助手(歯科臨床研究所勤務)、明海大学歯学部講師、助教授を経て、2003年同大教授。20年より現職。

講演②「人生100年時代、しっかり食べて健康長寿！」

少 子高齢化社会で、医療に課せられた使命が大ききふたつあります。ひとつは、生まれてきた命を大切に育てること。もうひとつは長い人生をよりよく生きていただくこと。つまり、健康寿命と平均寿命のギャップを埋めることが、医療の使命なのです。



昭和大歯科病院院長 **うゑまら かつよし** 先生

1986年東京医科歯科大学歯学部卒業、91年同大学院修了。96年米国UCLAに留学。東京医科歯科大学講師を経て、2007年昭和大歯学部教授に就任。19年より現職。専門は補綴(義歯)分野。

義歯のプロ!

私なりに健康長寿とは何かを考えると、それは活動できることです。活動できなくなるのがフレイル、あるいは認知症です。フレイルや認知症をある程度予防できれば、医療界は健康長寿に寄与できます。

では歯の欠損や補綴治療が、健康寿命とどう関係しているのか。統計では、人は40~70歳で平均12.5本の歯を喪失するのが現実です。そして奥歯の噛み合わせがない人はある人に比べ約1.5倍認知症になりやすい。もちろん認知症のリスクファクターはさまざまありますが、歯の欠損の重要性を再認識してほしいのです。歯の欠損が起こった後、治療せずに放置した人がプレフレイルになるリスクは約1.5倍、フレイルになるリスクは約1.8倍という統計もあります。

患者さんのニーズに合わせブリッジ、部分義歯、総義歯、インプラントの補綴治療

を行えば、生活の質の低下を防げます。多数歯欠損で義歯を使っている方の認知症リスクは、義歯不使用者より約4割低い。義歯や治療した歯を含めて合計21本以上の歯があれば、フレイルになる確率を75%抑えられるというデータもあります。

ただ義歯を使うと汚れがつきやすく、誤嚥性肺炎を無視できません。そこで誤嚥性肺炎の予防のためにオーラルケアが必要になるわけです。そしてまだ予備研究の段階ではありますが、義歯のブラークを減少させるうえで洗口液は有効である、というデータが得られています。

このように、人生100年時代を健康に生きるにはまず歯を失わない。万一、歯を失った場合はしっかり補綴治療を受けて放置しない。そしてその補綴装置のメンテナンスやケアが、何より重要なのです。

講演③「みんなが知りたい、感染症対策のこれまでとこれから」

すでに世界で約1億8000万人が新型コロナウイルス感染症を発生し(2021年7月2日現在)、2%の人が亡くなりました。他の感染症と比べ致死率は低めですが、これだけ多くが感染すると社会への影響は非常に大きい。アメリカの新型コロナウイルス患者約37万人への調査結果を



感染症のプロ!
くすなきとし 忽那賢志 先生

大阪大学大学院医学系研究科・医学部感染制御学講座教授
2004年山口大学医学部卒業。奈良県立医科大学感染症センター、市立奈良病院等を経て、12年より国立国際医療研究センター国際感染症センターに勤務。21年7月より現職。

を見ると、症状として熱があった人が全体の43%、咳が出た人が50%でした。3割の人は熱、咳、息切れのいずれもなく、症状だけで疑うのが難しい感染症です。嗅覚障害、味覚障害という症状も、頻度は8%に過ぎません。3～4割いる無症状の人も、感染を広げているのが悩ましいところです。

発症から一週間で約80%の人は快方に向かいますが、約5%の人は重症化します。持病の有無でも重症化のリスクは異なりますが、重症化のリスク因子で最も大きいのは年齢です。日本でも高齢になればなるほど重症化しやすいことがわかっています。

治療について触れておくと、発症してしばらくの間ウイルスが増殖するため、この時期に増殖を抑える抗ウイルス薬を使うこと。発症して一週間で降はステロイドや抗炎症薬を使うこと。この組み合わせで治療

を行うのが、今の考え方になっています。

コロナがインフルエンザと違うのは、発症前の無症状の時期でも感染力がある点です。発症3日前～5日後の感染力が強く、咳などなくても大声で飛沫を飛ばすことで、感染させてしまいます。このことから、無症状でもマスクを装着することが、感染症対策の新常識になりました。韓国の教会で発生した5000人規模のクラスターなどから繰り返されるようになった、3密環境を避けるのも新しい感染症対策です。

今、国内で接種されているmRNAワクチンは、コロナのスパイク蛋白に対して体が免疫を作るものです。人間の遺伝子情報に影響がなく、安全性の高いワクチンといえます。過去のワクチンと比べ副反応の頻度が高いことは確かですが、発症リスクを20分の1にする高い効果を持っています。

講演④「洗口液のススメ

～歯科医院専売モンダミン HABITPROについて～

モンダミンハビットプロは主成分としてCPC、GK2、TXAが含まれ、殺菌や抗炎症、出血予防などの効果があります。ノンアルコールで刺激が少なく、口腔外科手術後や口内炎がある方も気持ちよく使えます。特に患者様ご自身のプラークコントロールにモンダミンハビットプロを併用することは大変有効だと考えます。当院に20年通院されている患者様は当初、被せ物の不適合とホームケアに問題があり歯茎が著しく腫脹していました。被せ物のやりかえと一部矯正を行いました。その間のホームケアには大変苦労されていました。モンダミンハビットプロ発売と同時に使用をお願いし、今も良好な状態を維持しています。他にも幅広い方へ、この洗口液はお薦めできます。



メンテナンスのプロ!
わたなべみや 渡部麻都 先生

医療法人社団櫻雅会
オリオン歯科医院衛生士
2006年北原学院歯科衛生専門学校卒業。同年より医療法人社団櫻雅会オリオン歯科医院に勤務。日本臨床歯周病学会認定衛生士。

講演⑤「見えてきた! 洗口液の力」

私 が勤める歯科医院は指導優先のメンテナンスではなく、来院時に歯科衛生士が徹底的にプラークコントロールし、きれいな口腔内を患者さんに体感してもらうようにしています。モンダミンハビットプロをケア用品のひとつに導入したのは3年前、優しい味で本当に効くのかな、最初はそんな印象を持ちました。実際は高い効果があり、優しい味のおかげで年齢やお口の状態を選ばずに薦めることができます。殺菌効果が高く、新型コロナウイルスの感染対策として診療前、手術前後にも使っていただいています。傷の治りも早いように感じますし、何より患者さんのお口の中が変わってきました。



メンテナンスのプロ
ふるかわまさみ 古川優美 先生

矢田生活協同組合医療センター
歯科・口腔外科 歯科衛生士主任
1987年大阪歯科学院専門学校卒業。同年より矢田富田町診療所(現・矢田生活協同組合医療センター)に勤務。日本口腔インプラント学会認定インプラント専門衛生士。日本医療機器学会第2種滅菌技士。

トークセッション ～参加者からの質問に先生方が回答しました～

プログラムの最後に、春日井昇平先生の司会でトークセッションが行われ、講師が来場者の質問にそれぞれ答えた。

申基結先生は「歯周病と脳疾患との関係」について、歯周病菌を与えたマウスの脳のアミロイドベータ量が、与えないマウスの10倍蓄積した研究結果を紹介した。

馬場一美先生は「歯ぎしり、睡眠中の食いしばり対策」について、根本的な対処法はまだないが、マウスピースで短期的には減らすことができると回答した。

忽那賢志先生は「変異ウイルスに対するワクチン効果」について、最も効果が落ちたというファイザー・ワクチンの報告でも、75%の有効性は保たれていると答えた。

渡部麻都先生は「洗口液を使う患者と未使用の患者の違い」について、口腔内を見ただけで明らかで、洗口液を使う患者のほが状態が良いことを解説した。

古川優美先生は「マスク装着時の口臭対策」について、洗口液などを使ったプラークコントロールをして、口の中を清潔にすることが最も効果的だと答えた。

最後に「良い歯科医を選ぶポイント」について、講師がプロの立場から意見を述べた。良い歯科医院の条件としては「よく説明をする」「スタッフが長く勤務している」など

が挙がり、春日井先生が、こうまとめた。「一番重要なのは、患者さんの気持ちになって治療をすることです。モンダミンハビットプロは歯科医院でしか買えません。そのためにも、良い歯科医院をぜひ見つけていただきたい」



全体進行/司会
東京医科歯科大学名誉教授 春日井昇平 先生

1979年東京医科歯科大学歯学部卒業、83年同大学院歯学研究所修了。同大講師、助教などを経て、2000年同大学院歯学総合研究科教授。01年同大歯学部附属病院インプラント外来科長を併任。20年より現職。

